九州大学学術研究都市推進機構ニュース vol.2

# opack（オーパック）めーる

Organization for Promotion Academic City by Kyushu University

http://www.opack.jp/

## 「九州大学伊都キャンパスがいよいよオープン ～10月1日誕生記念式典開催」

九州大学伊都キャンパスが10月にオープンし、10月1日に、鎌田迪貞九州・山口経済連合会会長、麻生渡福岡県知事、山崎広太郎福岡市長、石川敬一(財)九州大学学術研究都市推進機構理事長をはじめ国会議員、在外公館や地元関係者らが多数出席して、記念式典が開催されました。

梶山総長は式典の中で、「地元産官学による学術研究都市づくりが着実に進められており、世界最高水準の教育研究拠点を目指していくとともに、地域社会に開かれたキャンパスづくりを進めていきたい」と挨拶し、約450人の出席者とともに伊都キャンパスの誕生を祝いました。

新キャンパスには、工学系研究教育棟・実験研究棟や理系図書館のほか、世界最高水準の超高圧電子顕微鏡や、九州初の水素ステーションなど最先端の研究施設や設備が整っています。

この新しい恵まれた研究・教育環境のもとで、これまで以上に優れた研究成果や人材が輩出され、産業界に対しても大きく貢献するものと期待されています。

伊都キャンパスではすでに工学系の学生及び教職員約2100人が活動を開始しました。来年10月には残りの工学系約2200人が移転することになっており、更なる賑わいをみせることになります。

新キャンパスへの交通インフラや、生活関連施設の整備も進んでおり、当機構も九州大学の知的資源を産業界の需要と結びつけながら、企業・研究機関等の立地促進への取り組みを強化していきます。

ウエスト3・4号館

## ～「九大学研都市駅」開業 都心から急行バスも運行し交通利便性が大幅UP!!～

九大学研都市駅とシャトルバス

九州大学伊都キャンパスオープンに先立つ9月23日、JR筑肥線の今宿～周船寺駅間に、「九大学研都市駅」が開業しました。

上下線合わせて、1日150本の列車が発着し地下鉄博多駅からの所要時間は29分です。駅前広場からは昭和バスが伊都キャンパスへのバスを運行しており、所要時間は約15分です。

同駅を中心とする福岡市の伊都土地区画整理事業(約130ha)では大型商業施設の建設が進み、地域交流センターなどの行政施設も計画されています。主要道路である学園通線の起点でもあり、今後整備が進むことで伊都キャンパスの門前町として学研都市を強力にバックアップする機能を持つことになります。

10月1日に九大開校に合わせて、開業記念イベントが行われた。

また、伊都キャンパスへは、博多駅及び天神から、都市高速道路経由の西鉄急行バス路線も1日30往復運行されており、利便性が飛躍的に向上しました。所要時間は、博多駅から55分、天神からは43分です。

## 活動報告

### 「九大・学研都市フェア」を開催

当機構と九州大学及び関係団体（九経連、福岡県、福岡市、前原市、志摩町、二丈町）では、九州大学伊都キャンパスの開校が約2週間後に迫った9月13日(火)より19日(祝・月)までの1週間、福岡市天神のソラリアプラザゼファにおいて「九大・学研都市フェア」を開催しました。

伊都キャンパスの展示を熱心に見る観客

伊都キャンパスを中心とした学術研究都市づくりを市民に紹介するこのイベントでは、『知と自然が共鳴する都市へ』をキャッチフレーズに、会場を4つのテーマで構成し、パネル展示や研究紹介を行いました。

○新キャンパスの新たな挑戦・未来を開く研究
○九州大学伊都キャンパス始動
○学研都市づくり
○新伊都国ものがたり

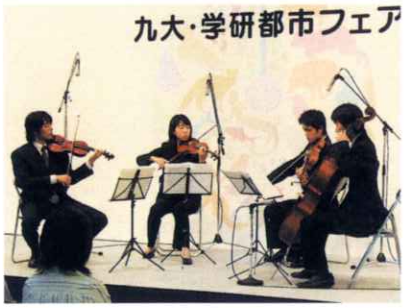
水素キャンパス・ICカードプロジェクトに代表される九州大学の新たな取り組みや、伊都キャンパス周辺のまちづくりへの取り組み（福岡市の区画整理事業、周辺道路整備や企業立地用地など）、糸島半島の歴史・文化の紹介などは訪れた皆様の関心も特に高く、パネルの前で立ち止まる姿が多く見受けられました。研究紹介コーナーでは風力発電の研究に実際に使用する高さ2m超の大型風車、ロボット、地震研究の発表など、九州大学の幅広い研究の一部を見ていただく良い機会となりました。

学研都市づくりコーナーも人気が高かった

期間中ステージでは九州大学の学生・留学生・職員によるコンサートや、空手や少林拳の演舞披露、ロボットの実演や操作体験を実施しました。また、訪れた皆様に研究成果を自宅で楽しんでいただこうと、会場内では世界で唯一、九州大学で保存されている突然変異を起こしたアサガオの種の配布も実施しました。

ロボットの実演に子供たちも大喜び

有川フェア実行委員長(九大副学長)の開会宣言




学生も歌や演奏で開校を祝った

期間中は多くの皆様にご来場いただき、また多くのマスコミの方々にも取材いただいたことで、九大の知的資源を核に産学連携と研究所などの立地を進め、21世紀の知の交流拠点づくりを目指す"学術研究都市構想"を多くの方々に知っていただくことができました。

### 九州大学伊都キャンパス誕生年2005

7月より学術研究都市のアピールと地域連携意識の高揚を目的に、"九州大学伊都キャンパス誕生年2005"と銘打って、さまざまなPR・サポート活動を展開してきました。今後も「アートinすせんじ街ごと美術館」（10/21～11/1:西区周船寺）や「サイエンスワールド（11/5・6:イムズ）に九大・学研都市コーナーを設置したり、九州大学や各地域の皆様と連携して「開校記念事業」や「地域行事」などを盛り上げるべく活動していきます。

http://www.opack.jp/event/17_back/ito2005.html

まつり横町（7/14:西区今宿）の風景

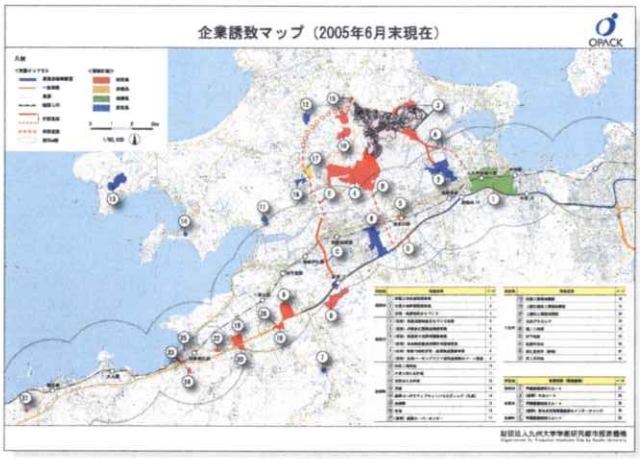
## 行事予定

**「東京セミナー開催」**

平成17年8月26日(金)東京(産業技術研究所　臨海副都心センター)において、九州大学と共催して「九州大学バイオアーキテクチャーセンター開所記念シンポジウム」を開催しました。内容は、「我が国のゲノム・ポストゲノム研究」と題し、(独)理化学研究所横浜研究所ゲノム科学総合研究センター長　榊　佳之氏の基調講演をはじめ、同センターの先生方の特別講演他、当機構による取り組みも発表しました。シンポジウム終了後交歓会も実施し、首都圏への企業誘致活動を行いました。　参加者:76名

**企業誘致マップが完成**

企業・研究機関の誘致を進めるため、その受け入れ先となる糸島半島域内の工業団地や土地区画整理事業地及び開発計画地などを、地元自治体(福岡市、前原市、志摩町、二丈町)と共に「企業誘致マップ」として作成し、企業の方などにご案内しています。




**「東京セミナー」**

平成17年11月28日(月)東京において、テーマ「半導体・水素エネルギー」で企業セミナーを開催します。

**「福岡セミナー」**

九州大学バイオアーキテクチャーセンターと共催してセミナーを近々開催の予定です。

**「東京シンポジウム」**

平成17年12月19日(月)東京において、九州大学と当機構の共催によるシンポジウムを開催します。

＊セミナーやシンポジウムについては、ホームページに掲載します。

## 九州大学学術研究都市とは？

**●2つの核**

今号では、前号で述べた4つの理念を踏まえた、「知の創造空間」構築に向けての2つの核について述べます。1つ目の核「知の交流・創造活動を促進する地域科学技術システム」の構築とは、人間・社会・地球のための「21世紀科学」の創出と展開とともに、これを促す舞台づくり、「知の活用」による産業と地域の活性化を推進する「知の中央ステーション:HST(Human, Science and Technology Station)」を構築することです。

2つ目の核「知・住・悠の舞台となる快適空間」は、1つ目の核を展開し実現する空間形成を意味します。快適空間の形成は、地域の自然、歴史、産業との共生を理念として,研究・交流・居住・生活サポート等の集積ゾーン、環境・景観等の保全ゾーン、田園風景の維持・育成ゾーン、商業・業務・サービスの機能集積を図るゾーンなどの空間構成を検討し、地域特性に応じて、保全・維持、整備・開発・誘導等の方策を掲げています。これらを図面上に落としたものが、右図です。

「知・住・悠の舞台となる快適空間の形成」
(1次圏の基本的な空間構成)

# 自治体からの報告
Report from municipality

前原市

**伊都キャンパス開校はまちづくりの起爆剤**

九州大学伊都キャンパスがいよいよ開校しました。地方分権の推進でより激しくなる地域間競争の中、「大学」という要素は前原市にとって今後のまちづくりの起爆剤になると考えています。

**大学関連の機能を誘導する受皿づくり**

前原市の第4次総合計画等においては、2箇所の「九州大学サポートゾーン」を位置付け、大学関連の土地利用を積極的に図ることにしています。

「前原北部地域」は、学生・教職員の生活基盤整備、大学関連の研究機能立地を目指し、先行して、地元住民・地権者とともに大学隣接地区「泊カツラギ地区」における大学門前町の形成に取り組んでいます。

一方、「前原インターチェンジ地区」では、大学の研究資源を実用化につなげ、新産業を生み出す研究・産業系の機能集積を目指し、開発手法として企業等の要望に合わせたオーダーメイド型の用地整備を進めています。

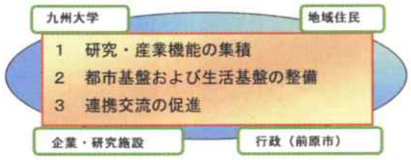
また、西九州自動車道沿線に「産業創出ゾーン」を設定し、新産業創出や企業誘致を進めます。

**まちづくりプランと企業立地優遇制度を制定**

市は、平成16年度に「九州大学との連携強化によるまちづくりプラン」を策定し、産業振興、農政、環境、国際交流、生涯学習など市の事業のあらゆる分野において九州大学との連携推進を目指しています。また、「前原市企業立地推進計画」を定め、一定条件の下、市の指定する地域に立地する企業等に対し、「固定資産税の免除」、「雇用奨励金の交付」を行う条例を制定しました。

**学術研究都市実現へ産学民公で3つのステップ**

前原市も一翼を担っている学術研究都市づくりですが、今後、産・学・民・公で協力し、「研究・産業機能集積」、道路などの「都市基盤等整備」、地域と大学との「連携交流の促進」に取り組んでいきたいと考えています。




## シリーズ 糸島の自然と歴史・文化

### 第2回 芥屋（けや）の大門（おおと）と姫島

伊都キャンパスがある糸島半島の地図を眺めると、その形は"竜の頭"にそっくりです。この竜の鼻と鼻先に志摩町の芥屋の大門と姫島があります。前者は国の天然記念物で、昔から「名勝奇岩、其の名天下に鳴る」と言われています。遊覧船で近づくと、六角柱状の無数の玄武岩が巨大な壁のごとくそそり立ち、圧倒されます。玄界灘に向かって口を開けた洞窟が"大門"で、奥行90m、間口10mのわが国最大の玄武岩洞です。奥の方から聞こえて来る大太鼓のような轟きは波の砕ける音で、自然の神秘さを感じさせます。遊覧船が出る芥屋漁港には新鮮な海の幸を満喫できる食事処や民宿もあり、くつろいだひと時を過ごせます。ここから小湾を挟んで、正面に花崗岩の立石山（標高210m）があります。自然歩道も整備され、山頂からはコバルトブルーの海に芥屋の大門が小さく見えます。

遊覧船からの芥屋の大門の全景

西の方に目を転じると姫島が間近に望まれます。この島は勤皇の志が高い女流歌人の"野村望東尼"が、高杉晋作ら志士を匿った罪などで流刑となったゆかりの地です。入牢した獄舎（再現）や記念碑（明治時代、伊藤博文らによって建立）もひっそりと建っています。か弱き女性でありながら福岡の三傑と称され、御霊は靖国神社に合祀されています。岐志漁港から町営の高速渡船で僅か16分。望東尼を偲びながら、離島から眺める糸島半島、背振や雷山が連なる筑紫山脈の雄大さは、ここからしか味わえないものがあります。

獄舎や記念碑の側にある野村望東尼（のむらもとに）の像

芥屋の大門 http://www.suisin.kyushu-u.ac.jp/showcase/travelnote/p0015.html
姫島 http://www.yado.co.jp/sima/himesima/himesima.htm
（ご案内と写真提供:糸島ふるさとガイド）

OPACめーる vol.2 平成17年11月1日発行
（財）九州大学学術研究都市推進機構 企画広報グループ 〒810-0001 福岡市中央区天神4-3-30 天神ビル新館6F
TEL.092-735-4848 FAX.092-716-1325 E-mail: info@opack.jp